



ふじみだい

ご入学 ご進級 おめでとうございます

校長 田村 憲一

3月25日には、令和7年度をもって富士見台小学校を離任される職員との離任式がありました。毎年毎年のことですが、涙があふれそうになり時々あふれてしまう時間です。

「校長先生はやめないの？」式の後、私に声をかけた子がいました。「校長先生はやめないよ」と答えると、「ふ～ん、そうなんだあ～」と何とも微妙な反応。「わあうれしい！」とか「マジかあ、がっかり」といった分かりやすいリアクションだと面白いことも言えたのですが、あまりにも微妙だったため、真面目に答えてしまいました。「うんそうなんだ。なんか、すみません…」

「教師は、おおいに尊敬されていい職業です」

わたしも尊敬する、大村はま先生の言葉です。私くらいの年代の教師は、一度は著書を読んだことがあるのではないのでしょうか。

「私が教師になった頃、教師というのは今よりもっとずっと尊敬される職業でした。それが、今はだいぶ変わってきているようで、どうも教師はあまり尊敬されていないようです。」(大村はま「灯し続けることば」より)と始まるメッセージです。

と言っても、「保護者のみなさん、地域のみなさん、私たちのことをもっと尊敬してください。」と言いたいわけではありません。大村先生は、続けてこう書かれています。「(教師は)子どものようすに惑わされず、自分の指導が本当に正しいか、子どもに力をつけているか、それを見きわめ、自分で全部責任をとっていく存在なのです。ですから、大いに尊敬されていい職業だと思うのです。」

ずいぶん前に書かれた文章ですので、現代の教育現場で同じように考えるのは難しいのかもしれない。今は、教師が担わなければならない役割が増え、教室だけで勝負できる環境ではありません。でも、「教室」は教育の原点であり、多くの教師が夢見たのは、やはり「教室」で子どもたちと一緒に学ぶ自分の姿だったのではないのでしょうか。

富士見台小学校の先生方に、「自分で全部責任をとれ」とは言いません。責任は私がとります。でも、少なくとも私たちは、「自分の指導が本当に正しいか」を見きわめ、「子どもに力をつけている」教師でなくてはなりません。その営みの結果、教師が「尊敬されていい職業」となり、子どもたちが「先生みたいになりたい」と未来に希望をもてることになるかと信じています。

大村先生の言葉を借りて、今年のわたしの思いを綴らせていただきました。

保護者の皆様、地域の皆様、本年度も富士見台小学校に力を貸してください。毎日がんばっている職員を応援してください。そして、努力不足を指摘してください。みなさんと一緒に、今と未来を生きる子どもたちを育てていきたいと願っています。